※時課の変更部分

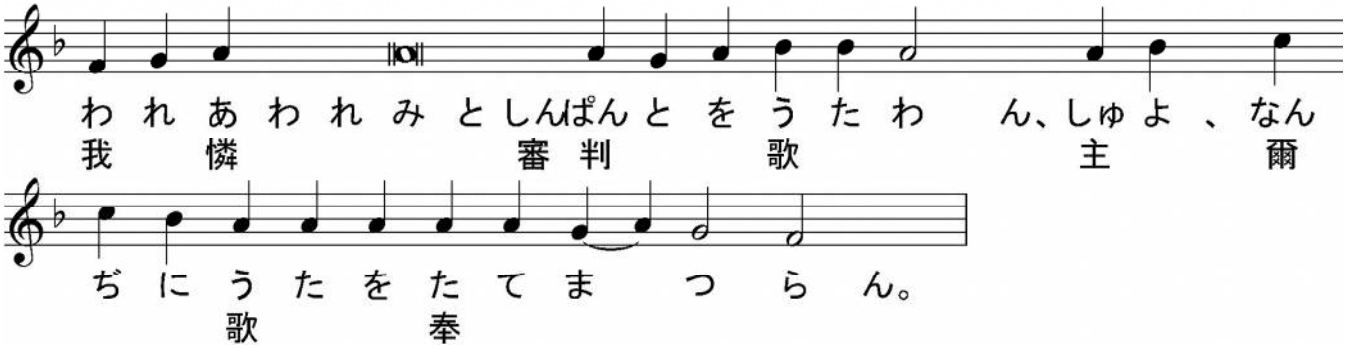
【　第六時課　預言のトロパリ　第８調　】

誦経）讃美たるハリストス我等の神、地に居る者を己に向わしめて、之を救わん爲に地を震わせ、己の仁慈と言い難き慈憐に因りて復之を堅むる主よ、生神女の祈禱に因りて我等を憐み給え。

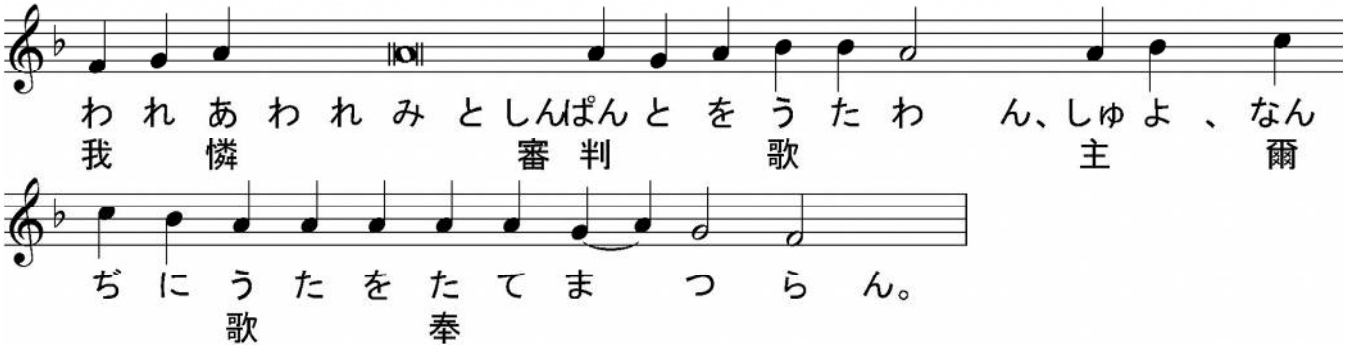
【　提綱　第１００聖詠　】

司祭）謹みて聽くべし。

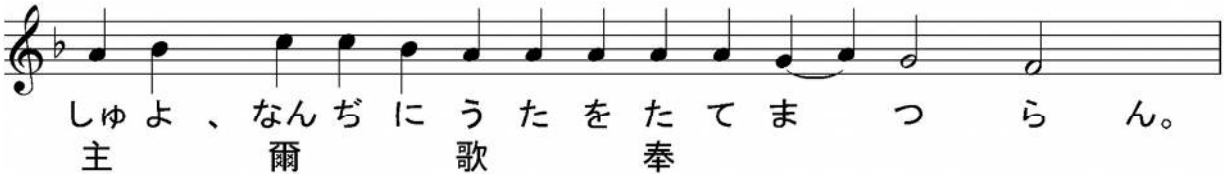
誦経）提綱、第四の調、我憐と審判とを歌わん、主よ、爾に歌を奉らん。



誦経）我玷なき道を思わん。



誦経）我憐と審判とを歌わん、



【　イサイヤの預言書　45 章 11―17 節　】

司祭）睿智、

誦経）イサイヤの預言書の讀、

司祭）謹みて聽くべし。

誦経）主イズライリの聖なる者及び其造成主は是くの如く言う、爾等我に我が諸子の未來の事を問い、又我が手の工に付きて我に指示せんと欲するか。我地を造り、其上に人を作れり、我卽我が手は諸天を張り、我又其悉くの軍に法を予えたり。我義を以て彼を起せり、亦其悉くの途を平にせん。彼は我が邑を建て、我が俘囚を、贖の爲ならず、賞の爲ならずして釋さん、主サヴァオフ之を言う。主是くの如く言う、エギペトの勤勞、エティオピヤの貿易、サヴェヤの長高き人は、皆爾に歸し、爾に屬せん、彼等爾に從い、縲絏を以て來りて、爾の前に俯伏し、爾に求めて云わん、神は唯爾に在り、此の外に他の神なし。イズライリの神、救主よ、實に爾は隱れ在す神なり。彼等皆恥を得て辱しめられん、偶像を造る者も皆彼等と共に恥を以て退かん。惟イズライリは主に在りて永遠の救を以て救われん、爾等は無窮の世に耻を得ず、辱を蒙らざらん。

※ 主よ、願わくは爾の慈憐は速に我等を迎えん、、、へ

※晩課の変更部分

（「カフィズマ」は第 18 カフィズマ）

【　第 140 聖詠　第 6 調　】

しゅよなんぢによぶすみやかにわれにいたりた
主　爾　呼　速　我　格　給

まえ、しゅよわれにききたまえ、
主　我　聽　給

しゅよなんぢによぶすみやかにわれにいたりた
主　爾　呼　速　我　格　給

まえ、なんぢによぶときわがいのりのこ
爾　呼　時　我　祷　聲

えをいれたまえ、しゅよわれにききた
納　給　主　我　聽　給

まえ、ねがわくはわがいのりはこう
願　我　祷　香

ろのかおりのごとくなんぢがかんばせのまえ
爐　香　如　爾　顔　前

にのぼり、わがてをあぐるはくれの
登　我　手　擧　暮

まつりのごとくいれられん。しゅよわれに
祭　如　納　主　我

ききたまえ。
聽　給

誦經）主よ、我が口に衛を置き、我が唇の門を扞ぎ給え、我が心に邪なる言

に傾きて、不法を行う人と共に、罪の推諉せしむる毋れ、願わくは我は彼等の甘味を嘗めざらん。義人は我を罰すべし、是れ矜恤なり、我を譴むべし、是れ極と美しき膏、我が首を悩ます能わざる者なり、唯我が禱は彼等の惡事に敵す。彼等の首長は巖石の間に散じ、我が言の柔和なるを聽く。我等を土の如く斫り砕き、我が骨は地獄の口に散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は爾を仰ぎ、我爾を恃む、我が靈を退くる毋れ。我が爲に設けられし弶、不法者の網より我を護り給え。不虔者は己の網に罹り、唯我は過ぐるを得ん。

【　第１４１聖詠　】

我が聲を以て主に呼び、我が聲を以て主に禱り、我が禱を其前に注ぎ、我が憂を其前に顯せり。我が靈の衷に弱りし時、爾は我の途を知れり、我が行く路に於て、彼等は竊に我が爲に網を設けたり。我右に目を注ぐに、一人も我を認むる者なし、我に遁るる所なく、我が靈を顧る者なし。主よ、我爾に呼びて云えり、爾は我の避所なり、生ける者の地に於いて我の分なり。我が呼ぶを聽き給え、我甚弱りたればなり、我を迫害する者より救い給え、彼等は我より強ければなり。

⑩我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讃榮せしめ給え。

我イェルサリムより出づるが如く爾の神聖なる戒より離れて、イェリホンの慾に至り、度生の慮に惹かれて、盜賊の思に遇い、此等より子たる恩寵の衣を剥がれ、傷に蔽われて、氣息なき者の如く臥す。司祭は來りて、傷を見て顧みざりき、レヴィも忌みて過ぎたり。唯爾、童貞女より言い難く身を取りし主ハリストス神よ、爾の救の脅より流したる血と水とを膏の如く我が傷に沃ぎ、之を醫して、慈憐なるに因りて、我を天上の會に合せ給え。

⑨ 爾恩を我に賜わん時、義人は我を環らん。

我イェルサリムより出づるが如く爾の神聖なる戒より離れて、イェリホンの慾に至り、度生の慮に惹かれて、盗賊の思に遇い、此等より子たる恩寵の衣を剥がれ、傷に蔽われて、氣息なき者の如く臥す。司祭は來りて、傷を見て顧みざりき、レヴィも忌みて過ぎたり。唯爾、童貞女より言い難く身を取りし主ハリストス神よ、爾の救の脅より流したる血と水とを膏の如く我が傷に沃ぎ、之を醫して、慈憐なるに因りて、我を天上の會に合せ給え。

⑧主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聽き給え、

主よ、爾の致命者は爾を諱まざりき、爾の戒より離れざりき。彼等の祈禱に因りて我等を憐み給え。

⑦願わくは爾の耳は我が禱の聲を聽き納れん。

童貞女よ、ガヴリイルは世世の前の議定を爾に顯して、爾の前に立ちて、安を問いて曰えり、種蒔かざる地よ、慶べ、焚かれざる棘よ、慶べ、量られざる深よ、慶べ、天に渡す橋、及びイァコフの見たる高き梯よ、慶べ、神聖なるマンナの壷よ、慶べ、詛を釋く者よ、慶べ、アダムを喚び起す者よ、慶べ、主は爾と偕にす。

⑥主よ、若し爾不法を糺さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

童貞女よ、ガヴリイルは世世の前の議定を爾に顯して、爾の前に立ちて、安を問いて曰えり、種蒔かざる地よ、慶べ、焚かれざる棘よ、慶べ、量られざる深よ、慶べ、天に渡す橋、及びイァコフの見たる高き梯よ、慶べ、神聖なるマンナの壷よ、慶べ、詛を釋く者よ、慶べ、アダムを喚び起す者よ、慶べ、主は

爾と偕にす。

⑤我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

童貞女よ、ガヴリイルは世世の前の議定を爾に顯して、爾の前に立ちて、安を問いて曰えり、種蒔かざる地よ、慶べ、焚かれざる棘よ、慶べ、量られざる深よ、慶べ、天に渡す橋、及びイァコフの見たる高き梯よ、慶べ、神聖なるマンナの壷よ、慶べ、詛を釋く者よ、慶べ、アダムを喚び起す者よ、慶べ、主は爾と偕にす。

④我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

無玷なる童貞女は天軍首に謂う、爾人の如く我に現れて、如何ぞ人に超ゆる言を言う、蓋神は我と偕にし、我の胎に入らんと曰えり、我に告げよ、如何ぞ我廣き住所及びヘルヴィムに超ゆる成聖の處とならん。虚言を以て我を惑わす勿れ、蓋我欲を知らず、婚姻に與るなし、何爲れぞ子を生まん。

③願わくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖わん。

無玷なる童貞女は天軍首に謂う、爾人の如く我に現れて、如何ぞ人に超ゆる言を言う、蓋神は我と偕にし、我の胎に入らんと曰えり、我に告げよ、如何ぞ我廣き住所及びヘルヴィムに超ゆる成聖の處とならん。虚言を以て我を惑わす勿れ、蓋我欲を知らず、婚姻に與るなし、何爲れぞ子を生まん。

②萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ、

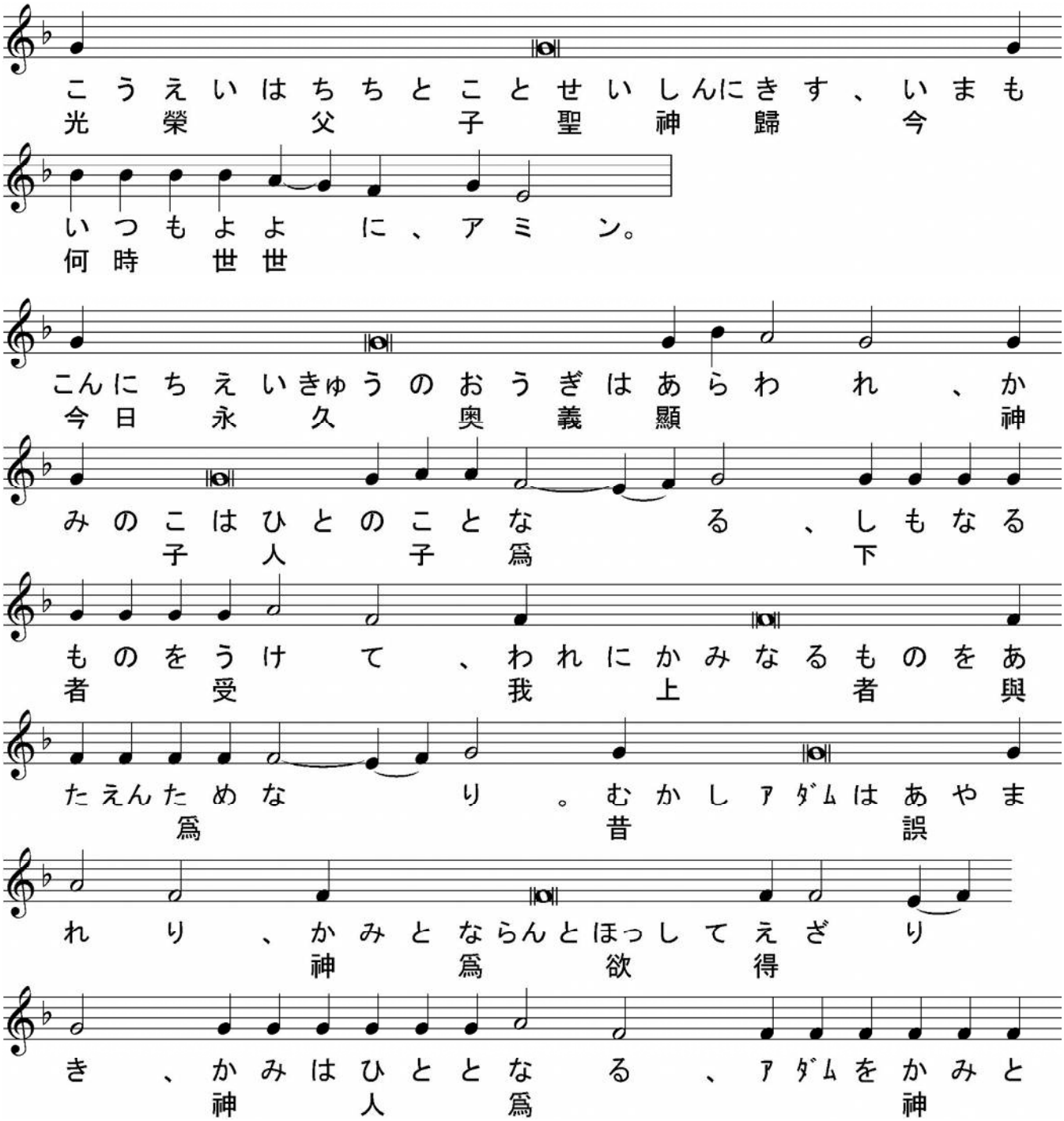
無形の者は曰う、神の欲する所には天性の順序勝たれて、人に超ゆる事は行わる。至聖至潔なる者よ、我の眞の言を信ぜよ。彼籲びて曰えり、今爾の言の如く我に成るべし、我は身なくして身を我より藉りし者を生まん、彼が結合に

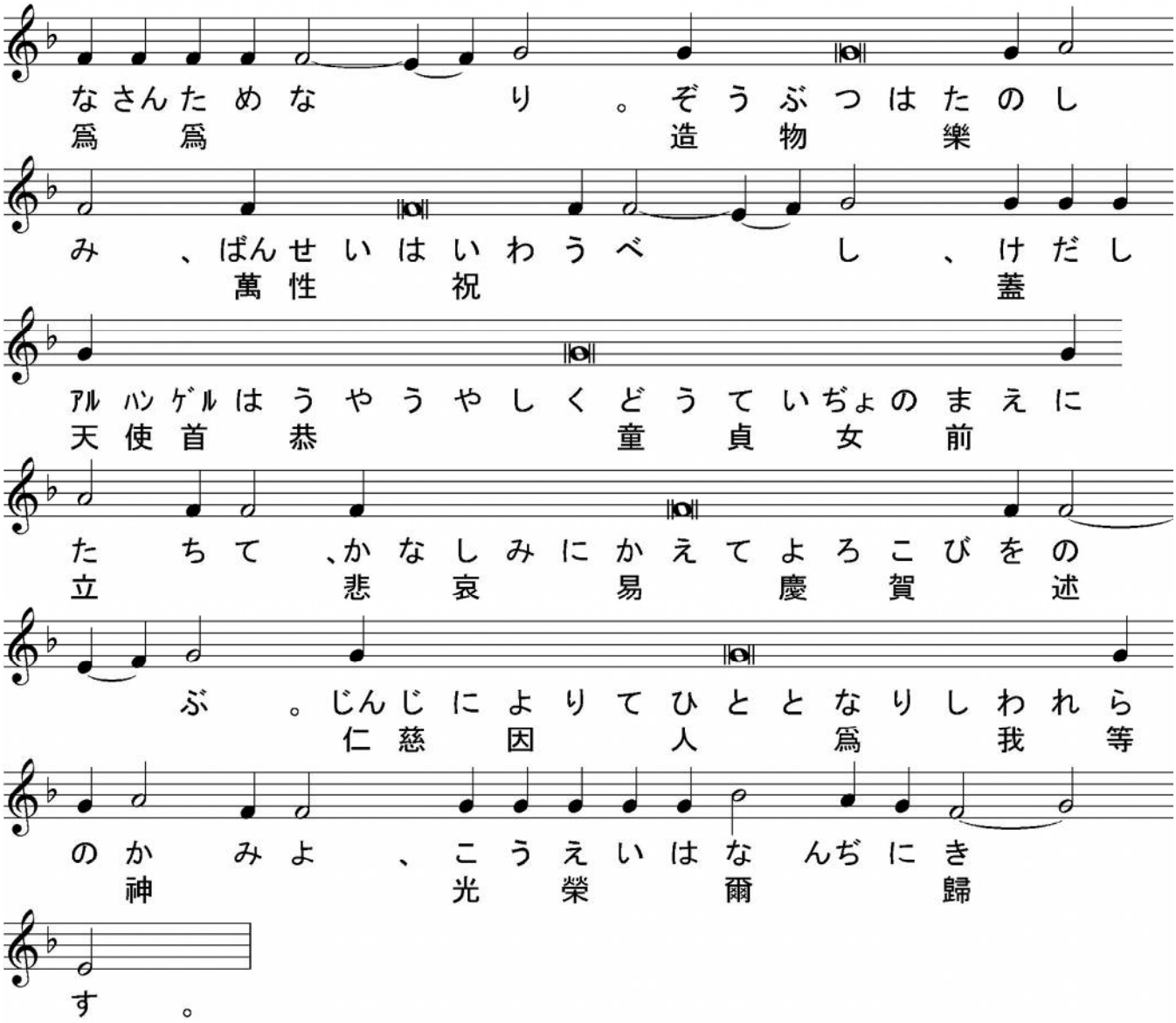
依りて、人を始の位に升せん爲なり、獨之を能する主なればなり。

① 蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

無形の者は曰う、神の欲する所には天性の順序勝たれて、人に超ゆる事は行わる。至聖至潔なる者よ、我の眞の言を信ぜよ。彼籲びて曰えり、今爾の言の如く我に成るべし、我は身なくして身を我より藉りし者を生まん、彼が結合に依りて、人を始の位に升せん爲なり、獨之を能する主なればなり。

【　生神女讃詞　第２調　】

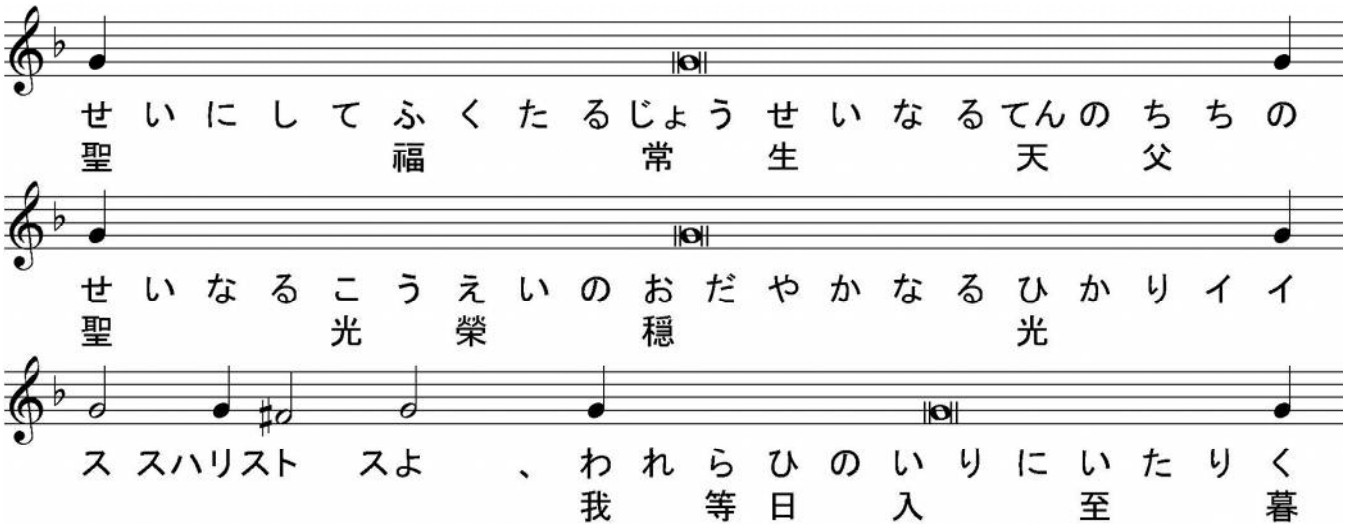


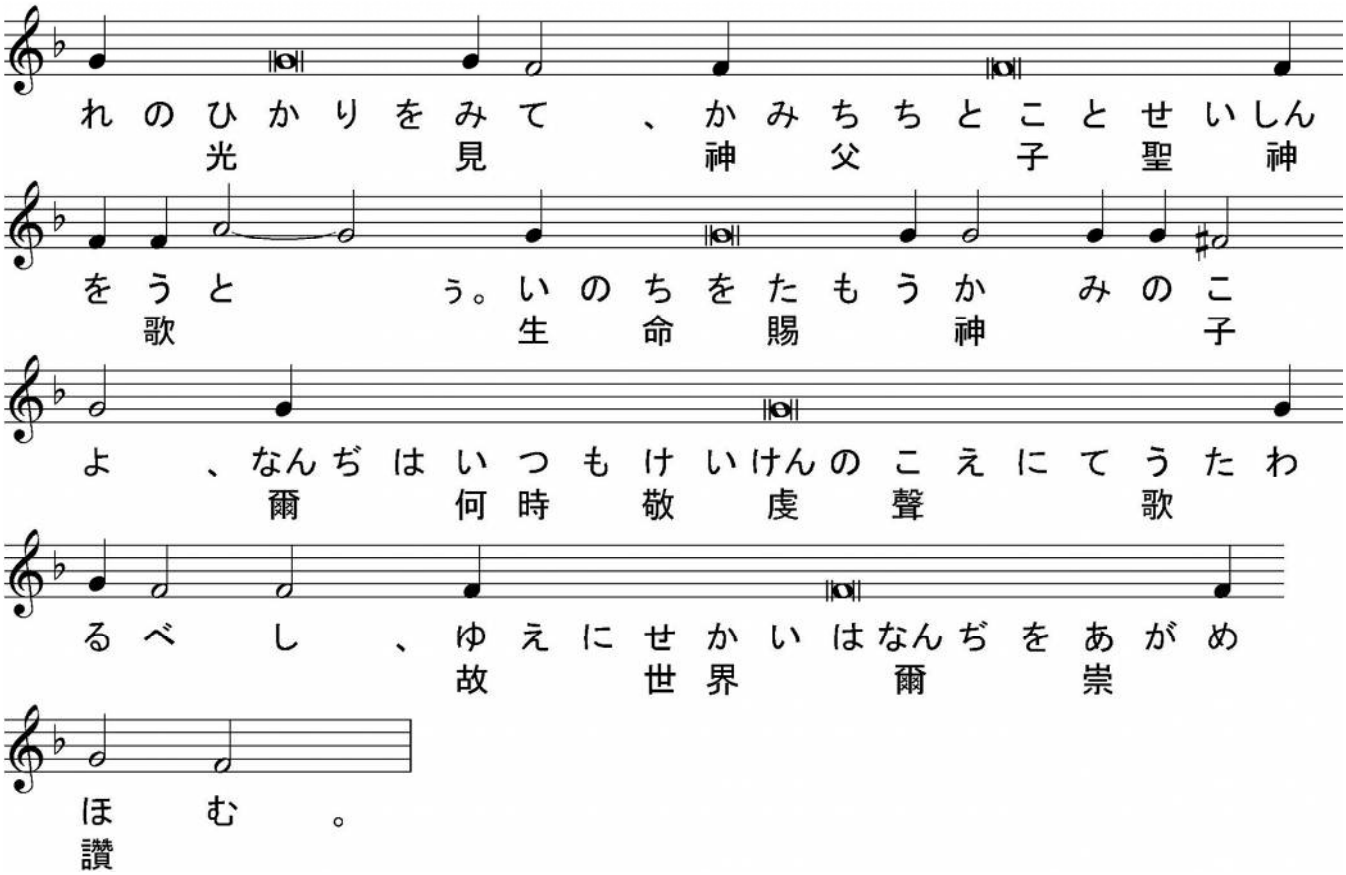


【　聖入　】

司祭）睿智（えいち）、肅（つつし）みて立（た）て、

【　聖ソフロニイの祝文　】

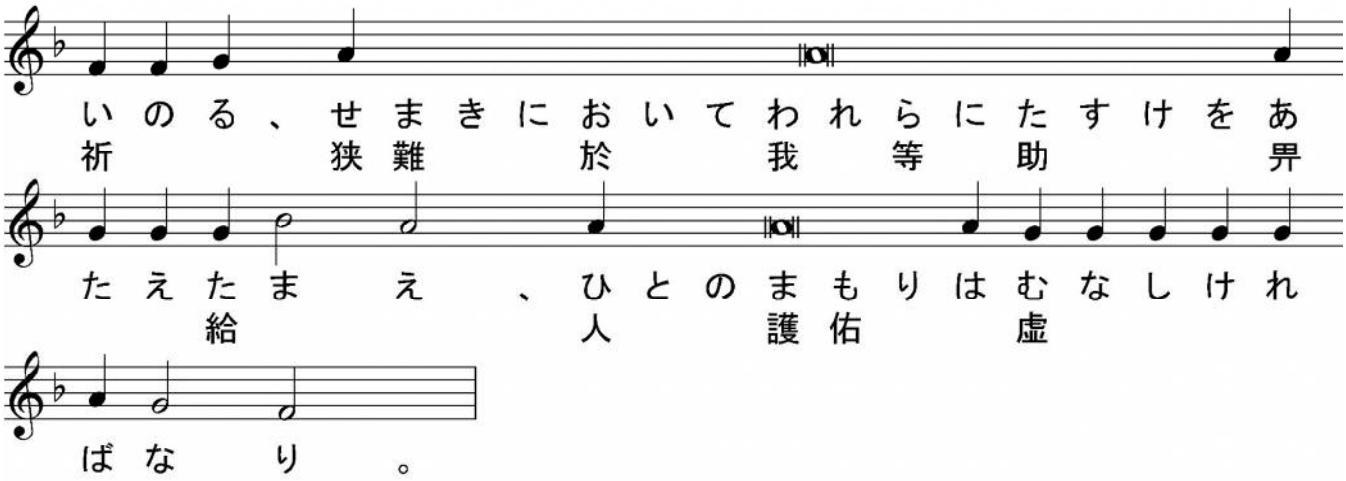




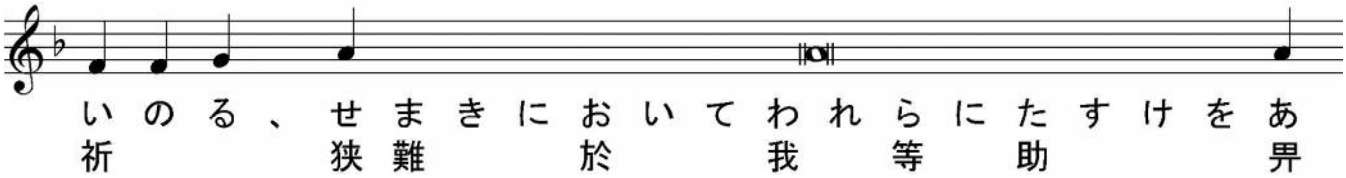
【 第一の提綱（プロキメン） 】

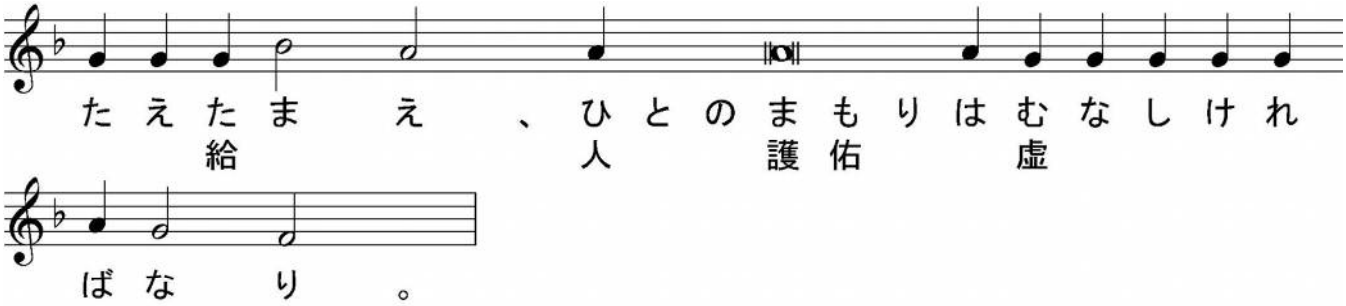
司祭）謹（つつし）みて聽（き）くべし、衆人（しゅうじん）に平安（へいあん）、睿智（えいち）、謹（つつし）みて聽（き）くべし。

誦經）プロキメン、第四（だいし）の調（しらべ）、祈（いの）る、狹難（せまき）に於（おい）て我等（われら）に助（たすけ）を畀（あた）え給（たま）え、人（ひと）の護佑（まもり）は虚（むな）しければなり、

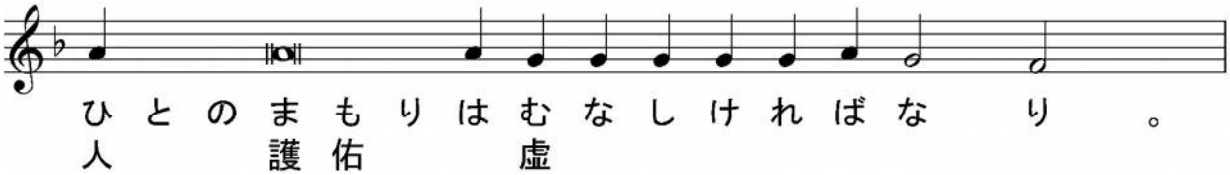


誦經）神（かみ）よ、爾我等（なんぢわれら）を棄（す）て、爾我等（なんぢわれら）を敗（やぶ）れり、





誦經）祈る、狹難に於て我等に助を畀え給え、



司祭）睿智、

誦經）創世記の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

【　創世記　8 章 4～21 節　】

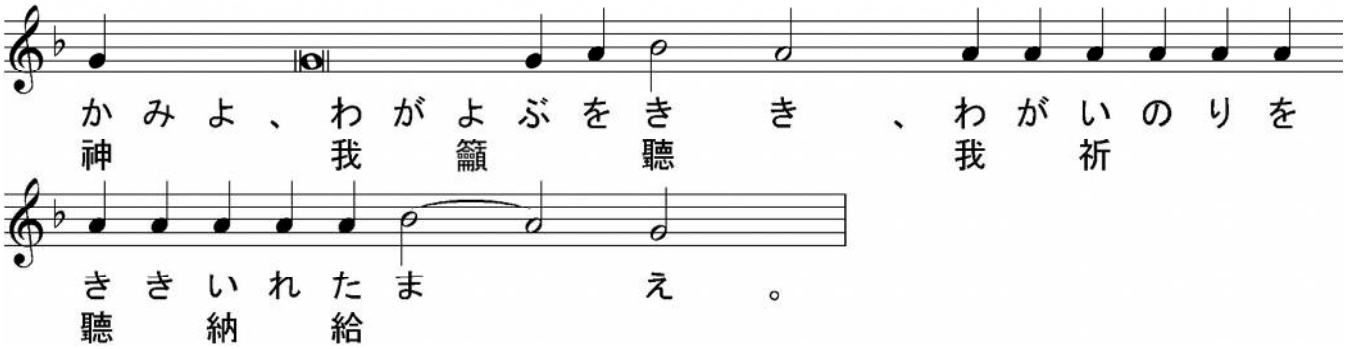
誦經）方舟は七月に至り、其月の十七日にアララト山に止まれり。水漸く減じて十月に至り、十月の朔に山の峯現れたり。四十日を歴て後、ノイ其方舟に作りたる窻を啓きて、鴉を放ちたれば、水の地に涸るるに至るまで、翺りて往來せり。其後彼は地の面より水の退きしかを見ん爲に、鴿を放ちしに、鴿は其足を止むる所を得ずして、彼に方舟に還れり、水全地の面に在りたればなり、彼手を伸べて之を取り、方舟に己の所に入れたり。又七日を待ちて、再鴿を方舟より放ちしに、鴿暮に及びて、其口に橄欖の新葉を銜みて彼に還れり、是に於てノイ水の地の面より退きしを知れり。更に又七日を待ちて、鴿を放ちしに、復彼の所に還らざりき。ノイ在世の六百一年の一月の元日に水地に涸れたり、ノイ作りし所の方舟の蓋を啓きて、水の地の面に涸れたるを視たり。二月の二十七日に至りて地乾きたり。主神はノイに謂いて曰えり、爾及び爾の妻、

爾の諸子及び爾の諸子の妻、共に方舟より出づべし、爾と偕に在る凡の獣、及び凡の肉、鳥より家畜に至るまで、及び凡の地に匍う者を己と偕に引き出せ、此等は地に散じて、地の上に生み且殖ゆべし。是に於てノイ及び其妻、其諸子、其諸子の妻、共に出でたり、凡の獣、凡の家畜、凡の鳥、凡の地に匍う者、其類に従いて方舟より出でたり。ノイは主の爲に祭壇を築き、凡の潔き家畜及び凡の潔き鳥より取りて、燔祭を壇の上に獻げたり、主は其馨しき香を享けたり。

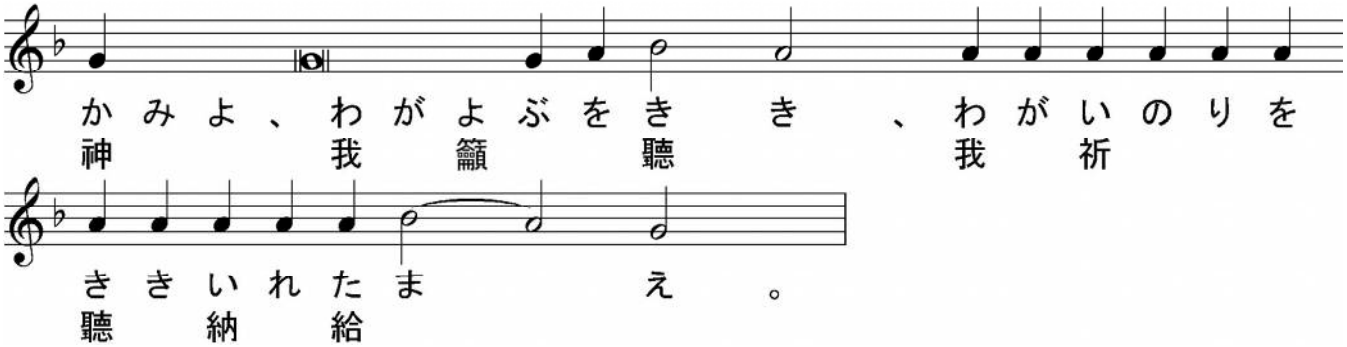
【 第二の提綱 】

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）プロキメン、第六の調、神よ、我が籲ぶを聽き、我が祈を聽き納れ給え、



誦經）我地の極より爾に呼ぶ、



誦經）神よ、我が籲ぶを聽き、

【　祝福　】

司祭）睿智、肅みて立て、ハリストスの光は衆人を照らす。

誦經）箴言の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

【　箴言　10 章 31 節～11 章 12 節　】

誦經）義者の口は智慧を流し惡者の舌は斷たれん。義者の唇は悅ぶべきことを知り、惡者の口は戻れることを語る。詐僞の權衡は主の惡む所、正しき重量は其悅ぶ所なり。驕傲來れば耻辱も亦來る、謙る者と偕に智慧あり。義者は死して痛惜を遺し、惡者の滅は俄にして喜悅を致す。正直者の端莊は彼等を導き、悖逆者の邪曲は彼等を滅さん。貨財は震怒の日に益なし、惟義は死より救わん。無玷者の義は其途を坦にし、惡者は其惡に因りて跌れん。正直者の義は彼等を救い、不法の者は其不法に因りて執えられん。義人は死して後其望絶えず、不法の者の望は亡ぶ。義者は艱難より救われ、惡者は代りて之に陷る。貳心の者は口を以て其鄰を亡し、惟義者は知識に因りて救わる。義者幸福を獲る時は邑樂しみ、惡者亡ぶる時は歡あり。義者の祝福に因りて邑は高くせられ、惡者の口に因りて圮さる。智慧なき者は其鄰を侮り、智慧ある人は緘默を守る。

※　願わくは我が禱は、、、へ